

第51回総合科学技術会議議事録（案）

1. 日時 平成17年12月27日（火） 14時04分～14時50分

2. 場所 総理官邸4階大会議室

3. 出席者

議長	小泉 純一郎	内閣総理大臣
議員	安倍 晋三	内閣官房長官
同	松田 岩夫	科学技術政策担当大臣
同	竹中 平蔵	総務大臣（代理 菅 義偉 総務副大臣）
同	谷垣 禎一	財務大臣
同	小坂 憲次	文部科学大臣
同	二階 俊博	経済産業大臣
同	阿部 博之	
同	薬師寺 泰蔵	
同	岸本 忠三	
同	柘植 綾夫	
同	黒田 玲子	
同	松本 和子	
同	吉野 浩行	
同	黒川 清	

（臨時）

議員 猪口 邦子 少子化・男女共同参画担当大臣

4. 議事

- （1）第3期科学技術基本計画(平成18～22年度)について 一諮問第5号「科学技術に関する基本政策について」に対する答申一
- （2）平成18年度科学技術関係予算案について
- （3）科学技術振興調整費について
- （4）その他

(配付資料)

- 資料 1-1 諮問第 5 号「科学技術に関する基本政策について」に対する答申（案）
- 資料 1-2 科学技術基本政策答申（案）について
- 資料 1-3 基本政策専門調査会での検討経過
- 資料 2-1 平成 18 年度科学技術関係予算案について
- 資料 2-2 優先順位付けを実施した科学技術関係施策の平成 18 年度予算案について
- 資料 2-3 平成 18 年度予算案における科学技術関係予算への優先順位付けの反映について
- 資料 3 平成 18 年度の科学技術振興調整費の配分の基本的考え方
- 資料 4 ヒト ES 細胞樹立計画及び使用計画の確認について
- 資料 5 第 50 回総合科学技術会議議事録（案）

5. 議事概要

- (1) 第 3 期科学技術基本計画(平成 18～22 年度)について — 諮問第 5 号「科学技術に関する基本政策について」に対する答申 —

【松田議員】

ただいまから、第 51 回総合科学技術会議を開会します。

今回は臨時議員として少子化・男女共同参画担当大臣に参加していただいております。

本日は、お手元の資料にありますとおり、4 つの議題を予定しております。

それでは「議題 1」の「第 3 期科学技術基本計画（平成 18～22 年度）について — 諮問第 5 号「科学技術に関する基本政策について」に対する答申 —」に入ります。

基本政策専門調査会において科学技術基本政策の最終的な答申案がとりまとめられました。

「投資目標」につきましては、前回の本会議における総理からの御指示をふまえ、私が財務大臣をはじめ関係者の方々とお話をさせていただいた結果、総額の規模は約 2.5 兆円と、とりまとめました。ありがとうございました。

それでは、「資料 1-1」の答申案について、阿部議員から「資料 1-2」に基づき御説明をお願いいたします

【阿部議員】

「資料１－２」の４ページを開けていただきたいと思います。今、松田大臣からお話がありましたように、前回１１月２８日の総合科学技術会議本会議で小泉総理の御指示によりまして松田大臣、谷垣大臣が協議をされまして、この上を書いてありますように２５兆円とするということをお決めいただいたわけでございます。それを直ちに１２月２１日の基本政策専門調査会で報告をいたしまして、大変高い評価の発言が相次ぎまして、お陰様でまさに画竜点睛といえますか、内容の濃い答申案ができたものと考えております。総理を始め両大臣、更に各位の御判断と御尽力によるものと深く敬意を表させていただいておりますと同時に、答申案の重さというものをまた強く認識しているところでございます。

９ページを開けていただきたいと思います。ここに第３期基本計画のポイントがございます。答申案の仕上げに、実はタウンミーティングとパブリックコメントというものを行いました。大変多くの意見が寄せられました。それらを踏まえまして最終的にまとめたものでございますが、この９ページのまとめのポイントは変わっておりません。前回御報告したとおりであります、「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」、科学技術が進めば進むほどここは重要になってくるわけであります。「投資の選択と集中の徹底」、これは毎回申し上げているとおりであります。何と言っても人であるということで「モノから人へ」、更に科学技術の国際競争、特にフロンランナー型の日本の競争力を増やしていくためには、加えて規制緩和、構造改革、さまざまな課題がございますが、それも第３期の大きいポイントでございます。

次の１０ページをごらんいただきたいと思います。前回も申し上げましたけれども、これに並行しまして分野別推進戦略の作業を進めております。年度末、来年３月までに総合科学技術会議で御決定をいただくべく、準備を進めているところでございます。以上、御報告を終わらせていただきます。

【松田議員】

ありがとうございました。

それでは、ただいま御説明いただきました答申案につきまして、『諮問第５号「科学技術に関する基本政策について」に対する答申』として決定したいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

【松田議員】

異議ないものと認めます。ありがとうございました。それでは、原案どおり決定し、総合科学技術会議から内閣総理大臣に対して答申することといたします。

次に、この答申に盛り込まれたことなどに対しまして、特に今後の実現に向けた皆様方のお考えについて御発言をお願いしたいと思います。

それでは、薬師寺議員どうぞ。

【薬師寺議員】

すべての予算が削減される中、社会保障費はともかく、いわゆる科学技術振興費が増額され、第3期基本計画の5年間の投資目標も決めていただきました。総合科学技術会議の司令塔としての役割を後押ししてくれるということで大変感謝を申し上げます。我々はそのような中で国民への責任を明らかにし、緊張感を持って第3期を進めていきたいと思っています。

なお、研究費の配分等に関しましては、研究者の間にはまだ不満や意見があることは十分承知しております。そのような声にも耳を傾け、意見を拝聴しながら、第3期では制度改革も含めてさらなる改革を進めていきたいと思っています。以上です。

【松田議員】

ありがとうございました。それでは、岸本議員どうぞ。

【岸本議員】

前回の本会議で総理が、「科学技術は明日への投資である」と言われたことの具体化、具現化がこの25兆円という数字であると思います。特に若い研究者に対する大きな励ましになりますし、国の外に対しても日本の科学技術はこれからもっと進むであろうという期待と、それから非常に強い競争相手になるという恐れとか、そういった非常に大きなインパクトを与えていると思います。多分、来週くらいには「ネイチャー」や「サイエンス」も書くのではないかと思います。

しかし、一方ではこの25兆円という総額に対して、この基本計画の中に国家基幹技術という言葉が入っています。それに対して金目のものを何とかそこへ押し込んでいこうという動きが現在でもあることも事実であります。それをいかに厳正な評価の下に、数を少なく絞り込んでいくかということが我々に課せられたこれから数か月間の非常に重要な責務であろうと思います。そこが緩んでしまいますと、第3期の基本計画の精神である「モノから人へ」という基本

が失われることにもなります。最も重要なことは国家基幹技術で、そこへ大きなものを入れ込もうとすることをいかに我々が評価し、選択していくか、絞り込んでいくかということだと思っております。

【松田議員】

柘植議員どうぞ。

【柘植議員】

大変中身の濃い計画ができたと思います。特に科学技術予算を国力の強化に対する投資と明確に位置付けまして、国民に新しい価値を提供する、いわゆるイノベーション創出をコミットした。これは、科学技術の行政政策として画期的と言っていると思います。

これからの重要課題は、このイノベーション能力をいかに強化するかであります。ざっと数えましたら、この基本計画に38か所にイノベーションという言葉が盛り込んであります。非常に心強いと思うと同時に、何としてでもこの投資にこたえるイノベーションの実現に注力したいと思います。

そのためには、やはり我が国を科学技術の経営力とあえて言いますが、科学技術経営力の一層の強化の改革が必要であると思います。我が国のイノベーション能力の強化におきまして一番効果がある強化策だと私が考えますのは、文部科学省が中核を担います基礎研究活動を、経済産業省とか、あるいは総務省などのいわゆる研究成果の実用化を担う行政活動、これをそれぞれ太いパイプで結び付ける。この改革にある。

具体的には、2つの観点からこのパイプの構築があります。1つのパイプは、これまでの第1期、第2期の基礎研究成果をこれから5年から10年の間で社会的、経済的な価値にまで結び付ける。こういうハイプの強化です。第2のパイプは、これからの第3期の計画で始めます基礎研究の入り口を、10年から15年先のイノベーション実現という出口の道筋に結び付けるパイプの構築です。

以上、関係府省の協力、参加を得まして、科学技術投資の入口と出口を結ぶ、いわばイノベーションのパイプラインをできるだけ多くつくる。この構造改革を総合科学技術会議が主導して実現していきたいと思います。

【松田議員】

黒田議員、どうぞ。

【黒田議員】

前回、この会議で、「国民が将来にわたって誇りと自信を持っていくためには、

科学技術が経済を牽引していく必要がある、それから、我国は科学技術が経済を牽引する科学技術創造立国を目指すのであって、科学技術を通して国際貢献をするのだ。決して後ろ向きでないことを、第3期の基本計画を通して世界に宣言したい」ということを述べさせていただきました。その願いが叶いまして、皆様の御尽力で立派な第3期の科学技術基本計画に向けた答申ができたこと、そして投資目標も25兆円を明示することができたことは大変ありがたく思っています。

ただ、この情勢でこういうことができたということを末端の現場にいる人がしっかりと把握するということがすごく重要だと思っています。やはりシステム改革を行いながら、期待に応えていかなければいけないと考えています。

また、女性研究者に対しての数値目標が設定されたということは前進であると思っています。これをきっかけに優れた女性の人材登用、あるいは育成が加速されることを願っています。

もう一点は、10年くらい前から市民と科学技術の現場をつなぐサイエンスインタープリターの重要性というものを提唱しているのですが、社会と国民に支持される科学技術が一つの柱になったということをうれしく思っています。

最後にもう一つですが、何回も申し上げているのですが、成果を上げると言うどうしても目に見える応用的なもの、それから短期に上がる成果というものを考えがちなのですが、本当に国を牽引していく力強い日本発の技術とか産業というものは、長期的で多様な学術研究なしには生まれないということを申し上げたいと思います。以上です。

【松田議員】

松本議員、どうぞ。

【松本議員】

第3期においては、研究開発目標の選択と絞り込みがより一層行われる予定です。絞り込みに当たりましては、国内の識者等の意見を十分伺って検討することが必要ですが、それとともに海外の関連分野の動向を十分把握するということが非常に重要だと思います。一例を挙げて申し上げますと、現在これからの重要分野の一つに医学や生命科学分野における分子イメージングという分野が挙がっております。このイメージングといいますのは、細胞を観察したり、それから人間や動物の組織を顕微鏡で観察するなどの方法によって薬の開発をより一層効果的に進める、あるいは病気の診断を正確に行うというようなことで、恐らく7、8年から10年先には非常に大きな社会的、経済的影響力のある分野に育つものと考えられております。

この分野ではどういう方法を持ってイメージングを行うかといういろいろな方法が基本的にはあるわけですが、現在日本はかなりPETという手法が言われております。PETというのはポジトロン・トモグラフィという人間の断層写真を見る方法です。これと同じように、人間の断層写真を見るもう一つの方法にMRI、核磁気共鳴を利用する方法が現在既に実用的になっております。

日本は今の様子を見ておきますと、相当PETということに力点が置かれておりますけれども、米国などを見ますとMRIを飛躍的に高感度化するというようなことを相当に大きな目標にしておきまして、こういう将来非常に産業上あるいは社会生活、人間の健康にとって波及効果の大きい分野についての絞り込みということは、やはり海外の動向を十分調査してから行うということが非常に重要になると思いますので、絞り込みは確かに必要なんですけれども、それと同時にもしかすると多様性を持った方がいいという計画の立て方もある場合があるということで、是非十分に御検討いただきたいと思います。

【松田議員】

では、吉野議員どうぞ。

【吉野議員】

未来への投資ということで、投資規模が約25兆円と決定されたことに関し、敬意を表したいと思います。これによって、科学技術創造立国へのモーメントムが続くことになったと思います。

このコミットメントを、日本全国でなるべく多くの人とシェアをして、科学技術を盛り上げていくことにつなげていきたいと思います。以上でございます。

【松田議員】

ありがとうございました。それでは、黒川議員どうぞ。

【黒川議員】

この間もお話申し上げましたけれども、どんな企業も、どんなつらいときでも投資を減らすと必ずだめになる。しかし、それには条件があり、その時にはリサーチデベロップメントのところの再編成、人を変えとかいろいろなことをしない限りはその投資は無駄になるということは申し上げたとおりです。

結果として、これだけ増額になったというのは大変素晴らしいことだと思いますが、学の立場から言うとちょっと問題が残っていると思います。才能ある子どもの個性、能力の伸長とか、イノベーションの創出、大学の活性化、競争

力の強化、世界の科学技術をリードする大学の形成とかいろいろ書いてありますけれども、本当にできるかというところにかかっていると思うわけです。

それは、世界的に今、大競争の時代だと言って人材を世界的にどんどん引っ張ろうというのがそれぞれの国の一流大学の責務だと思って猛烈な競争になっています。今年の日本の10月19日の「ニューズウィーク」にも出ていますけれども、世界じゅうの若い高校生、将来を担う人材をどうやって集めるかということに非常に苦勞をしています。MITもハーバードもそうですが、しかし日本でそういうことをやっているかということ、していないです。

つまり、大学院という方向が決まった人ではなくて、リーディングユニバーシティはいかに優秀な高校生を世界じゅうから集めるかが重要です。世界のリーディングユニバーシティは本当に国際化しています。

先日総理も行かれたそうですが、大分にある立命館に行ってきたんです。それで、私のクラスは250人だけでも、8割は日本人ではありませんでした。すばらしかったです。アメリカで講義をしているような気になったけれども、別府の人にも聞いたのですが、いい影響が多くて悪い影響は全然感じられないと町でも言っていました。ちょうど総理が3週間くらい前に来られましたよと言っていましたけれども、ああいう小さなキャンパスではなくてリーディングユニバーシティは学部の3分の1は国際化しろというのが私の主張でありまして、独法になった大学でできないはずはない。それによってアジアからもたくさんの学生が来て、それをステップにして世界に出ていこうという人が出てくれば、日本の次の世代もどんどん引っ張られて世界に出て行く。これが世界の人脈、次の世代をつくるということで、日本の安全保障の根幹であり、国の姿としては是非それをやってもらいたい。

つまり、今でも日本の大学は鎖国のままではないのかというお話をこの間、大分キャンパスは400年前の出島と同じで、ここだけだという話をしましたけれども、そのくらいのことを是非考えてもらいたい。大学の方はそういう責務があると思っておりますので、これをどうやって政策に反映させるかということで、実は学術会議が4月に「科学技術政策の要諦」というものを出しましたが、それも総理にはお正月に時間があれば読んでいただければと思いますけれども、そういうことも趣旨として書いてありますのでよろしくお願いします。

【松田議員】

阿部議員、どうぞ。

【阿部議員】

前回、構造改革について申し上げましたので、今日は科学技術の社会受容に

ついて若干申し上げさせていただきと思います。

これは非常に多面的でございまして、国がやらなければいけないところ、あるいは学会、黒川先生のところのようなアカデミーのレベルでやるべきところ、あるいは大学、研究所、企業レベル、更には研究者レベル、いろいろなレベルの課題があるわけでありまして。そこでは、例えば薬師寺議員が非常に努力された生命倫理などの問題のように、世論を二分するような課題に対してどうやってルールをつくっていくか。また、各種の不正防止策、それから実験データの捏造のような研究者の倫理問題というようなものがあるわけでありまして、そういうものに対して第3期の計画の中で、特に国がどういうリーダーシップをとって戦略を立てていくかということと、具体的な施策をきちんと議論をして提示していくということがまず問われているのではないかと思いますので、いろいろ努力をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【松田議員】

ありがとうございました。それでは、猪口大臣お願いします。

【猪口臨時議員】

男女共同参画担当大臣として一言申し上げます。皆様がそれほど注目なところではないところで、私としては高く評価したいところがございます。それは、女性研究者など、多様な個々人の能力を引き出せるよう、根本的な対応の取組が今回の答申には盛り込まれていることです。また、17 ページなどに、「女性研究者の活躍促進」という独立した項目としておまとめいただきましたことを大変感謝しております。

このこととの関係におきまして、私は男女共同参画大臣として一言、この場で松本和子議員にお祝い申し上げたいと思います。日本では女性の活躍はまだまだ限られていますけれども、来年1月から議員は化学会の国際的な連合体でありますIUPACの副会長に、そしてその2年後には女性として世界で初めて会長に御就任されますことを私は日本の名誉であると存じます。どれほど科学を目指したい女子学生たちに励みになることかとも思いますので、担当大臣として一言お伝えいたします。

そして、本日閣議決定いただきました第2次男女共同参画基本計画との関係におきましても、女性の研究と出産・育児等の両立支援、男性も含めてですけれども、そして、女性研究者の積極的な登用促進、女子の理工系進路選択の支援など、この第3期の科学技術基本計画との連携を図りながら、担当大臣としてしっかりと進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【松田議員】

それでは、小坂大臣どうぞ。

【小坂議員】

まずもって、私ども科学技術政策の実行部隊を抱える文部科学省といたしましては、松田大臣を通じて谷垣財務大臣にお話をさせていただきましたけれども、総理の方針をしっかりと踏まえて谷垣財務大臣に御理解を賜りまして 25 兆円という明確な政府研究開発投資目標額が出ましたことは、この方向性をはっきりさせる面で、それぞれの議員の皆さんからお話がありましたように、私どもにとって大変ありがたいことだと思います。

実際の運用に当たりましては、この投資を有効に、優れた成果に結び付けるべく、今後とも科学技術システムの改革を一層進めてまいりたいと存じますし、また、ただいま議員それぞれの方から賜りました意見は大変刺激になる点がたくさんございました。そういった中で、私も各現場を視察する中で自信を深めてまいりました。今日の日本がライフサイエンスにおいても、あるいはこれからの先端融合分野における研究拠点の確立についても、自信を持って進めれば必ず達成できると願っておりますので、なお一層の御指導を賜りたいと考えております。取り分けリーディングユニバーシティにおける外人比率を高めて、世界の優れた知能が日本に集結する。これは大学院大学だけではなく、リーディングユニバーシティでもそういうことが起こるような動きを活性化しよう。この御提案は肝に銘じておきたいと思っておりますし、松本議員のお話も私に非常に腑に落ちるところがございまして、これからまた努力をしたいと思っております。

まずもってとりあえず決意表明をさせていただいて、すばらしい答申をいただきましたことに感謝申し上げます。

【松田議員】

それでは、二階大臣どうぞ。

【二階議員】

経済産業省は、国際競争力の強化と地域産業、中小企業の活性化の 2 つを軸とした新成長戦略の策定の作業を始めているところであります。中でも、国際競争力の強化のためには、一にも二にも科学技術の果たす役割は極めて重要と認識しております。このため、第 3 期科学技術基本計画を着実に実行することが極めて重要であると考えております。特に、国際競争力の源となる分野ごとに研究開発投資の重点化を図る分野別推進戦略をしっかりと策定することが今

後重要であると思っております。

私は、新成長戦略については、第1に次世代の基幹産業の育成、第2に各省連携による航空機等の国際競争力強化、第3に中小企業のモノ作り基盤の整備などを極めて重要視しておりまして、これを今、事務的に整理しているところであります。

また、エネルギーについては、安定供給の確保の視点から「新・国家エネルギー戦略」づくりを検討しているところであります。こうした取組について、今回の分野別推進戦略に是非反映させたいと考えておりますので、今後具体的な内容についてお示しすることにしたいと思っております。

【松田議員】

谷垣大臣、どうぞ。

【谷垣議員】

先ほどからお話がありますように、第3期の基本計画の政府研究開発投資の総額の規模は松田大臣とも御協議の上、約25兆円とさせていただいたところで。これは、松田大臣との間で、魅力ある日本をつくっていくために研究開発投資は極めて重要であるということで合意に至ったわけですが、それと同時に政府研究開発投資が真に生きた投資となって今後具体的な成果につながっていくような仕組みを更にきちんとしていくことが大事だという点につきましても松田大臣と合意を見たところでございまして、第3期におきましては官民の連携強化ということももちろん大事でございまして、とにかく改革に従来以上に積極的に取り組んでいくことが必要だという点で合意を見たわけであり。

先ほど来、ここの議員の先生方からもいろいろなアイデアあるいは強い意欲が示されておりますけれども、第3期におきましては総合科学技術会議のより強いリーダーシップの下で、科学技術関係者にこういう改革に更に積極的に取り組んでいただきまして、グローバル化の流れの中でこの政府研究開発投資が魅力ある日本をつくっていく原動力となることを心から期待しているところでございます。よろしくお願い申し上げます。

【松田議員】

ありがとうございました。それぞれ大変有意義な御意見をいただき、どうもありがとうございました。いただきました御意見を踏まえ、答申が本当に活きたものになるよう、これからお互いに一層頑張っていこうではありませんか。

本当に約1年間、本答申の策定に御協力をいただきました皆様方に心から厚

く御礼を申し上げます。

(2) 平成18年度科学技術関係予算案について

【松田議員】

それでは、「議題2」の「平成18年度科学技術関係予算案について」に入ります。

去る24日の閣議で平成18年度政府予算案が決定されました。

本日はその速報値について概要をまとめましたので、「資料2-1」に基づき岸本議員から御説明をお願いいたします。

【岸本議員】

科学技術関係予算全体は対前年度0.1%と、ごくわずかに減少でありますけれども、直接関係のある科学技術振興費は対前年度比1.1%増ということでありまして、社会保障費を除いてすべて対前年度減額になっているところで、科学技術振興費だけが特別に増加ということになっております。これは、前回の総理の、科学技術予算は増やさなければならぬ数少ない分野の一つですということを実際に具体的に表していただいたものであり、その科学技術に対する期待を我々は重く受け止め、実行に移さなければならぬと思っております。

それから、2番目の優先順位付け、SABC付けでありますけれども、今年是我々は非常に厳しく絞り込みを行いました。それに対しまして財務省も、Sは対前年当初予算の15.7%増し、Cは30%減額という、例年よりも非常に強い予算の優先順位付けを行っていただきました。これは、我々の優先順位付けを財務省が取り上げていただいた結果であると思えます。

しかし、これに対しましては、例えば立国調査会などからは総合科学技術会議は科学技術を奨励するためのものであって、こんなに厳しくSABCを絞り込むとは何ごとかという非常に強い批判を受けておりますけれども、やはりいいものをできるだけ絞り込んでそれに注力するということがいい成果を生むために重要なことであろうと思えます。

先ほど松本議員も言われましたが、いろいろな多様なものを支援する。それは基礎的な文科省の科学技術の予算があります。それも確実に増えておりまして、そういう基礎的なことは十分支援しながら、こういうプロジェクトの研究に対しては選択と集中を徹底していくということがやはり必要ではないかと思えます。

その例として、2 ページ目に優先順位で S が付いたものは格段に拡充していただきましたし、新規のものにも予算を付けていただきました。しかしながら、優先順位が B や C でゼロ査定となったものも 18 施策存在します。それから第 3 期基本計画、人材の育成に重点を置くということで、そういう分野の予算等に関しても非常に大きく増やしていただいた部分があります。全体として、第 3 期科学技術計画の初年度にふさわしい予算を確保できたのではないかと思います。

我々のこれからの仕事は、これが効率よく効果的に適切に執行されていくということでありまして、ここでも何回か申しましたけれども、無駄な重複を防ぐ方策を確立するとか、府省間の壁をできるだけ破って連携を強化するとか、そういったことを行いながら、この科学予算を有効に活用し、日本の科学技術が進んでいくようにやっていきたいと思っております。以上です。

【松田議員】

どうもありがとうございました。それでは、大臣からの御発言があります。最初に文部科学大臣からどうぞ。

【小坂議員】

大変厳しい財政状況の中ではございますけれども、科学技術振興費をしっかり増やしていただくことができました。先ほど申し上げたように、科学技術の振興に十分な配慮がなされた予算であったために、第 3 期の初年度としては大変よいスタートが切れると感謝を申し上げます。

また、我が国のライフサイエンスの研究は、いわゆる入り口であります基礎研究、例えばゲノム、RNA、たんぱく質、これらの研究から、出口でありますところの医療等、例えば鳥インフルエンザ、あるいは SARS 等の感染症まで、スーパーコンピュータなどを駆使して国際的に高い成果を出しているわけでございますが、来年度より新しく始める最先端・高性能汎用スーパーコンピュータ、35 億円新規にお認めいただきましたけれども、我が国がライフサイエンスの研究の発展を更に強力に牽引するものとして大変有効であると思っております。研究者の皆さんも大変熱い思いを持って取り組んでおられまして、戦略的推進の必要性を実感しているところでございます。

現場に伺いまして、先ほどのお話のように、選択と集中ということをしっかりやっていきたいということはもちろんでございますけれども、同時に人のやらない方式にチャレンジするということもやはりこの分野では必要なことだと思っております。世界と同じ方式ばかりをやっているといけない。たまには違う方式を、これは日本が今までも既にやってきたところでございますので、

それを更に発展させていきたいと思っております。

DNAをプリントして本にして出すなどということを理化学研究所が世界に先駆けてやったことによって、この分野の研究の世界的な交流を促進させたという意味でも非常に大きな成果だと思っております。こういったものを今後とも出せるように、しっかり私どもも支援をし、指導をしてみたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

【松田議員】

それでは、財務大臣からお願いします。

【谷垣議員】

平成18年度予算案における科学技術振興費でございますが、これは極めて厳しい財政事情の中での編成作業でございましたけれども、今もお話がありましたように、我が国の発展基盤となる科学技術の振興を図るという観点から、社会保障関係費以外の主要経費は軒並みマイナスとなる中で、対前年度1.1%増、1兆3,312億円、これは主要経費中で最大の伸びでございます。

それから、先ほど岸本先生からもお話がありましたが、総合科学技術会議のSABCも踏まえまして科学技術振興費の中でもメリハリづけを強化しまして、宇宙関係費予算対前年36億円増、あるいは次世代スーパーコンピュータ新規35億円等、国として責任を持って投資すべき大規模研究開発プロジェクトに重点的に配分したところでございます。

それから、代表的な競争的資金である科研費についても増額、これは対前年プラス0.8%でございますが、こういったことで基礎研究分野に関しても目配りをする事ができたのではないかと思っております。

このように、18年度の科学技術振興費については量的、質的にも拡充を図ったところでございますが、先ほども申し上げたように、これが活きた投資となるための取り組みを進めていただくことを重ねてお願いしたいと思っております。

いずれにせよ、18年度科学技術予算の編成に当たりましては、総理の強力なリーダーシップと関係各大臣、それから総合科学技術会議議員の大変な御協力をいただきましたことに、この場を借りて心から御礼申し上げます。

【松田議員】

ありがとうございました。それでは、本件について何かほかに御意見がありましたらどうぞ。

薬師寺議員、どうぞ。

【薬師寺議員】

実は、18 年度の予算を我々が考えるときに非常に大変でした。なぜならば、基本計画が道半ばの中で来年度のいわゆる科学技術の S A B C を決めなければいけなかった。二重の苦勞がありました。

しかしながら、でき上がってみますと財務省が非常に協力してくれたということで、この基本政策の第 3 章以下、非常に重要な予算に関係するような部分に関してはまだでき上がっていなかったわけですが、それを、きちんとこれを読んでいただきまして、いわゆる予算の復活に関しましても松田大臣を始めよくやっていただきまして、いわゆる政策が最後では一緒になった予算になっていると思います。本当に感謝申し上げます。

【松田議員】

ありがとうございました。ほかによろしゅうございますか。

どうもありがとうございました。

平成 1 8 年度科学技術関係予算が第 3 期科学技術基本計画の初年度にふさわしい投資として、予算成立の暁には、無駄のない効率的な執行となるよう、御尽力いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(3) 科学技術振興調整費について

【松田議員】

次に、「議題 3」の「科学技術振興調整費について」に入ります。

まず、「平成 1 8 年度の科学技術振興調整費の配分の基本的考え方」については、私が有識者議員、文部科学大臣および関係大臣の意見を聞いた上で、「資料 3」のとおり決定いたしました。

また、この基本的考え方に沿って早速新規課題の公募を行うために、文部科学省が作成した公募要領についても私と有識者議員が確認いたしました。

さらに、文部科学省が実施した 1 7 年度課題の評価結果等についても同様に確認いたしました。以上、御報告いたします。

(4) その他

【松田議員】

次に、議題４の「その他」に入ります。

ヒトES細胞の樹立計画及び使用計画の確認について、文部科学大臣から御報告をお願いいたします。

【小坂議員】

ヒトES細胞の樹立及び使用の計画につきましては、国が定めた指針に基づきまして同指針への適合性について文部科学大臣が確認を行い、その結果を総合科学技術会議に報告することとなっておりますのでございます。

前回報告を行いました平成15年9月以降、平成17年12月現在までの間に、樹立計画につきましては変更2件、使用計画につきましては新規23件、変更22件の計45件の確認を行いました。その結果について御報告する次第でございます。今後とも指針を的確に運用し、生命倫理上、必要な配慮が十分になされた上で、ヒトES細胞を用いた研究が適切に実施されよう努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

【松田議員】

どうもありがとうございました。最後に、松本議員、吉野議員におかれましては今回が総合科学技術会議への最後の御出席となります。本当に御苦勞様でございました。御活躍ありがとうございました。なお、今後もいろいろと先ほど来お話が出ておりますようにそれぞれ御活躍、大変皆で喜んでおるところでございます。

この機会にお一言ずつどうぞごあいさつをお願いいたします。

【松本議員】

私は4年間議員を務めさせていただきました。それ以前は普通の早稲田大学の教授でありましたから、非常に私個人といたしましては貴重な体験をさせていただいたと感謝しております。このお陰で多くの大臣にお知り合いにならせていただきましたし、また非常に優れた議員の先生方に多数お知り合いにならせていただきまして、私としましては本当にこの上ない光栄な経験をさせていただきました。

この間、小泉首相はずっと首相でいらっしゃるしまして、小泉首相の議長の下に一貫して改革という言葉が科学技術の分野にも本当に津々浦々聞こえてくるという思いでした。国立大学の改革、それから今度第3期になってその目標の

絞り込みなど、今まで過去 30 年私は大学教員をしておりましたけれども、その間には考えられなかったような大きな変化が現在起こりつつあるということで、私としてもこれから日本の大学及び研究機関のシステムというのは本当に新しい日本らしい効率的なシステムができてくるのであろうと、大きな期待をしています。

今後も、是非周囲から支援をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【松田議員】

ありがとうございました。吉野議員、お願いいたします。

【吉野議員】

私も 4 年間、非常勤議員を務めさせて頂きましたが、任期の前半はグローバルな合従連衡の真っ直中にある自動車業界で現役の社長を務めておりましたので、独自性と技術力を持ってグローバルに競争すべきとの視点を私は非常に強く持っておりました。

その視点から申し上げますと、国立大学の法人化というのは大変重要で正しい方向であります。大学は、日本のこれからの根っこの部分を担当されるわけですから、将来を期待したいと思います。

話は少し変わりますが、先週、中国の 2004 年の GDP が 16.8% 修正され、その結果、中国の GDP は日本のちょうど 4 割になりました。ちなみに、日本の GDP はアメリカのまたちょうど 4 割であります。

先月、私は 4、5 日間、中国へ行ってきましたが、そのときに成長のエネルギーのすさまじさを実感して帰りまして、これから先どうなるんだろうと考えました。例えば、日本の GDP 成長率を、人口減少等を考慮して 1、2% と仮定し、中国は今まで通り 9% 成長で伸びていくとしますと、十数年で日本と中国の GDP は同じになります。それから、アメリカが 3% 成長くらいだとして計算しますと、中国の GDP は、日本と同じになった 20 年後に、アメリカと一緒に、全世界の GDP の 7 割を米中が占める。単純な計算ではそういうことになります。

三十数年後、私自身がこの世にいるかはわかりませんが、この総合科学技術会議で私が一つ認識したことは、非常に多くの例で、基礎的な科学が発明、発見されてから実用化されるまでに 30 年から 40 年かかっていたということです。したがって、今、既に芽が出始めている技術、例えば私の分野で言いますと燃料電池やロボットの技術は、今後十数年間でもう日本の得意技になっていて、さっきのような、単純な計算通りの結果にはさせない。それから、三十数年先

に米中の GDP が同程度の規模になり、一方の日本の GDP が現在の 5 分の 1 になる時期には、今、拓かれてくるベーシックな科学が花を開いてきていて、やはり単純な計算通りにはならない。そういった将来への私の期待を表明して、退任のご挨拶に代えたいと思います。どうもありがとうございました。

【松田議員】

ありがとうございました。それぞれ力強い展望とともに素晴らしい退任の弁をいただきました。我々の大きな励みであります。ありがとうございました。

(報道陣入室)

【松田議員】

最後に、小泉総理から御発言をいただきたいと思います。

【小泉議長（内閣総理大臣）】

科学技術の重要性は我々も認識しておりますし、だからこそ、ほとんどマイナス予算の中で科学技術の予算がプラスになったわけでありますので、これからも皆さんのお力を借りなければならないと思っています。

小泉内閣としても、環境保護と経済発展の両立の鍵を握るのが科学技術ということでやってまいりました。どうかこの予算によって成果が出るように、今後とも格段の御指導、御協力をお願いしたいと思います。

また、松本議員、吉野議員、4 年間ありがとうございました。松本議員はこれから国際学術機関の初の女性会長になるわけですから、女性の進出にも、また科学の振興にも、御指導、御協力をいただきたいと思います。吉野議員もこれから自動車業界や燃料電池によるエネルギー戦略など、大変大事な分野ですし、電気自動車など、自動車業界の今後の取り組みというのは科学技術の面においても先端的なものになってきておりますので、そういう点においても御指導いただけると考えていますので、これからもよろしくお願いいたします。

(報道陣退室)

【松田議員】

どうもありがとうございました。

既に御確認いただいております前回の議事録については、本会議終了後、公表させていただきます。

また、本日の配付資料につきましてもすべて公表することといたします。

以上をもちまして、本日の総合科学技術会議を終了いたします。ありがとうございました。